

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の参加状況

第2学年 国語222人 社会223人 数学221人

理科220人 英語222人

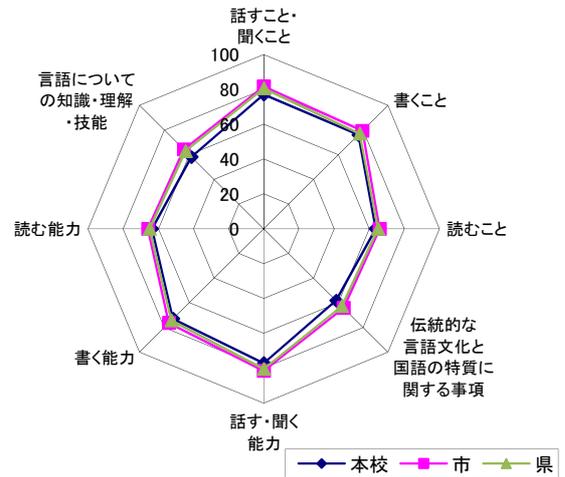
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることを留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 77.1 | 81.6 | 80.5 |
| | 書くこと | 76.2 | 79.4 | 77.2 |
| | 読むこと | 63.6 | 65.9 | 65.0 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 58.2 | 64.2 | 62.8 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 77.1 | 81.6 | 80.5 |
| | 書く能力 | 73.1 | 76.4 | 74.3 |
| | 読む能力 | 63.6 | 65.9 | 65.0 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 58.3 | 64.4 | 63.0 |



★指導の工夫と改善

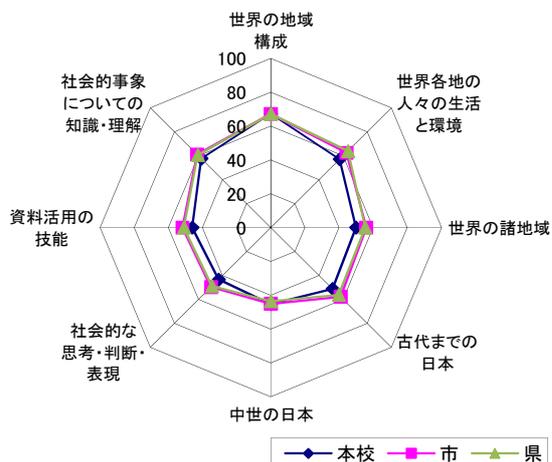
○良好なもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | ●すべての項目が県平均よりも低かった。特に「司会者の討論の進め方の工夫について理解している」が低かった。 | ・話し合いをする際、司会の仕方を学校単位で決め、統一して話し合い活動を実施することを検討する。 |
| 書くこと | ○自分の立場や理由、まとめについてはきちんと書くことができている。 ●3段落構成で書くことが苦手である。 | ・説明文を生かし、文章の構成や展開を理解させるだけでなく、それを生かした作文の授業ができるようにしたい。 |
| 読むこと | ○県平均を大きく下回っている項目はない。比較的良い分野である。 ○文脈に即した語句の意味の理解以外は、県平均よりもできている。 | ・授業中に国語の辞書を活用し、語句の意味を確認してきたが、文脈に即した意味を取るまで考えさせることが少なかったため、文脈に即した語句の意味を考えさせる授業の工夫をしたい。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ●県平均よりも低い。また漢字の書きができない。(冒険)はできたが、宇都宮市が冒険活動を実施しているためだと思う。 ●県平均よりも低い。単語の理解以外は5ポイント以上低い。 | ・定期テスト前に漢字の一覧を示し、学習しやすいよう工夫したが、それでは足りないと思われる。よって、単元毎に漢字についてテストするなどし、継続して学習させるよう工夫する。 ・覚えることのできるものなので、覚える内容をしっかりと覚えさせる。そして、確認テストをするなどし、定着を図る。既習の内容も不徹底なので、既習内容を復習しながら授業を進めるといった工夫を加える。 |
| | | |

宇都宮市立若松原中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 世界の地域構成 | 67.3 | 67.1 | 67.1 |
| | 世界各地の人々の生活と環境 | 57.1 | 62.6 | 63.9 |
| | 世界の諸地域 | 50.0 | 55.9 | 55.3 |
| | 古代までの日本 | 51.2 | 57.8 | 56.2 |
| | 中世の日本 | 45.3 | 45.1 | 43.5 |
| 観点 | 社会的な思考・判断・表現 | 43.3 | 49.7 | 48.9 |
| | 資料活用 of 技能 | 46.1 | 51.8 | 51.0 |
| | 社会的な事象についての知識・理解 | 57.7 | 61.1 | 60.6 |



★指導の工夫と改善

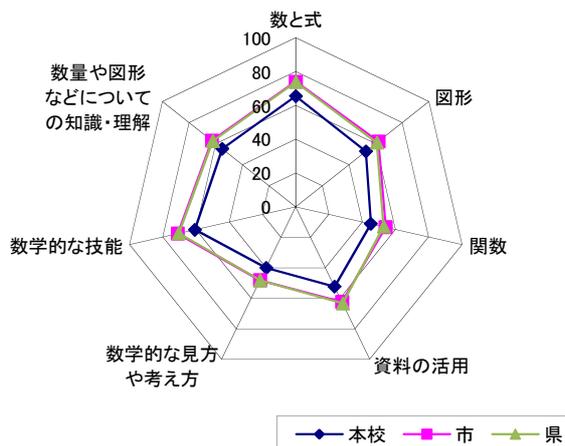
○良好なもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---------------|--|--|
| 世界の地域構成 | ○海洋や地域区分の分布の理解が進んでいる。 ●様々な世界地図の活用が苦手である。 | ・用途別に応じた世界地図を視覚的に理解させる指導を重視したい。 |
| 世界各地の人々の生活と環境 | ○宗教の分布については理解が進んでいる。 ●世界の気候帯の理解が定着していない。 | ・気候に影響を与える要素や、その地域に住む人々の生活と関連付けて考えさせるように指導する。 |
| 世界の諸地域 | ○アジア州の気候の特徴について、理解が進んでいる。 ●アジア州、南アメリカ州における資料の読み取りが低い。 | ・地域に対する地名等の理解が定着していない。基本的な事項からもう一度学習し直し、資料を読み取るための判断材料を身につけさせたい。 |
| 古代までの日本 | ○古墳が広まった背景について理解している。 ●時代の移り変わりと資料の読み取りが低い。 | ・時代によって変化する事項についての理解を深め、内容の定着を図りたい。 |
| 中世の日本 | ○体制の仕組みを説明する内容の理解が定着している。 ●時代の移り変わりと資料の読み取りが低い。 | ・人物に関するストーリーの内容の定着は図れている。他の内容も興味関心を高める導入の工夫を行い、頻出資料の読み取りを特化して繰り返し学習を進めていく。 |
| | | |

宇都宮市立若松原中学校第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と式 | 65.5 | 74.1 | 73.8 |
| | 図形 | 52.7 | 62.0 | 60.9 |
| | 関数 | 45.2 | 54.1 | 52.9 |
| | 資料の活用 | 52.4 | 62.5 | 63.4 |
| 観点 | 数学的な見方や考え方 | 40.1 | 48.2 | 48.3 |
| | 数学的な技能 | 60.7 | 71.0 | 70.4 |
| | 数量や図形などについての知識・理解 | 55.2 | 62.9 | 62.3 |



★指導の工夫と改善

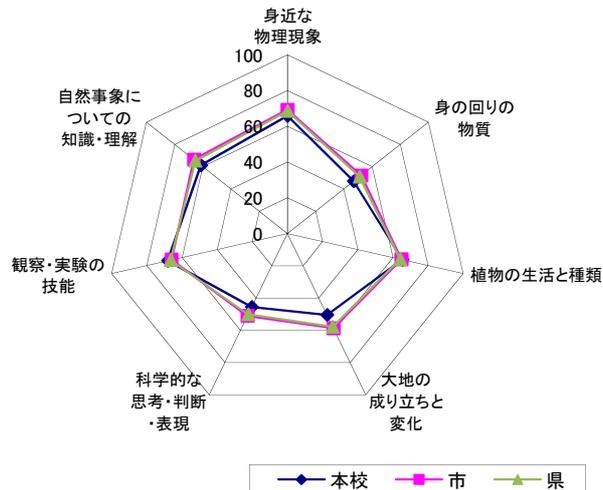
○良好なもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 数と式 | ○正負の計算については概ね理解している。 ●四則、同類項をまとめる分配法則の計算については、正答率が低い。 | ・授業の中で、つまづいている所を明確にさせ、繰り返し計算させたり、定期テストの中で、1年次の復習を取り上げる。また、TTの授業の活用や習熟度別学習を取り入れて対応していく。 |
| 図形 | ○角度を求める問題、またねじれの位置にある辺を選択する問題、見取り図を選ぶ問題は概ね理解できている。 ●作図の問題や、表面積を求める式を選ぶ問題、さらに球の体積を求める式を選ぶ問題は十分にできていない。 | ・図形についての性質の理解を図り、具体物や図を取り入れた授業を増やし、視覚的に認識させていく。また、基本的な問題を多く解くことで、知識の定着を図る。 |
| 関数 | ○点の座標を読み取ることや比例の関係について説明した文章を選択することは概ね理解できている。 ●比例や反比例の関係を式やグラフで表すことや、比例や反比例の考え方を利用する問題が十分にできていない。 | ・比例や反比例の関係を式で表したり、グラフを描く練習を繰り返し行い定着を図る。また、比例や反比例の関係の特徴をしっかりと理解し、その活用ができるように練習させる。 |
| 資料の活用 | ○度数分布表とヒストグラムの関係は概ね理解している。 ●度数分布表から相対度数を求める問題の正答率が低い。 | ・ワーク等の補助教材で多くの問題を練習させ、求め方を身につけさせる。また、授業でTTや習熟度別学習を活用して、個に応じた指導を行う。 |
| | | |

宇都宮市立若松原中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 身近な物理現象 | 65.8 | 69.2 | 68.6 |
| | 身の回りの物質 | 47.0 | 52.2 | 51.1 |
| | 植物の生活と種類 | 65.3 | 64.8 | 64.1 |
| | 大地の成り立ちと変化 | 50.5 | 58.7 | 57.8 |
| 観点 | 科学的な思考・判断・表現 | 45.6 | 51.1 | 50.1 |
| | 観察・実験の技能 | 68.1 | 66.0 | 66.5 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 61.4 | 66.5 | 65.4 |



★指導の工夫と改善

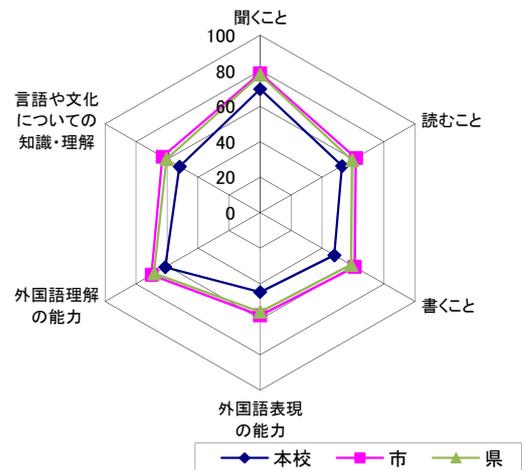
○良好なもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------------|---|--|
| 身近な物理現象 | ○『光や音』の知識・理解や『力と圧力』のグラフの読み取りの問題では7割以上が正答している。 ●県平均と比べると2.8ポイント低く、思考を要する実像の問題や実験結果から読み取って計算する問題では正答が3割程度となっている。 | ・『光や音』では思考的な問題に、『力と圧力』では計算問題に重点を置いて指導していく。 |
| 身の回りの物質 | ○『物質のすがた』の気体の捕集方法で6割以上、『水溶液』の粒子モデルで5割、『状態変化』のガスバーナーの使い方では7割以上が正答している。 ●県平均と比べると4.1ポイント低く、気体の性質や溶解度のグラフ問題や混合物の沸点の問題では正答が4割程度となっている。 | ・『物質のすがた』では気体の性質、『水溶液』では溶解度、『状態変化』では混合物の温度変化に重点を置いて指導していく。 |
| 植物の生活と種類 | ○県平均と比べると1.2ポイント高く、『生物の観察』の正しいスケッチの仕方では9割近く、『植物の体のつくりとはたらき』の植物のつくりで7割、『植物のなかま』の分類の問題で9割が正答している。 ●顕微鏡の使い方では6割弱、対照実験の問題で3割、分類の基準の問題で6割の正答となっている。 | ・『生物の観察』では顕微鏡の使い方、『植物の体のつくりとはたらき』では対照実験を含めた実験や観察、『植物のなかま』では分類基準の確認に重点を置いて指導していく。 |
| 大地の成り立ちと変化 | ○『火山と地震』の地震の規模を表す尺度や揺れの伝わり方については8割以上、『地震の重なりと過去のようす』でも6割が正答している。 ●県平均と比べると7.6ポイント低く、火山岩のつくりや示相化石が堆積した時代の環境の問題では正答が4割弱となっている。 | ・『火山と地震』では火成岩全体の組織、『地震の重なりと過去のようす』では地震と化石との関連に重点を置いて指導していく。 |
| | | |

宇都宮市立若松原中学校第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 聞くこと | 69.7 | 78.7 | 77.8 |
| | 読むこと | 52.8 | 61.7 | 59.2 |
| | 書くこと | 47.9 | 61.0 | 58.7 |
| 観点 | 外国語表現の能力 | 44.7 | 57.9 | 55.8 |
| | 外国語理解の能力 | 61.3 | 70.1 | 68.4 |
| | 言語や文化についての知識・理解 | 52.0 | 63.0 | 60.4 |



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|---|
| 聞くこと | <p>○単語やある場面の中での対話などを聞き取る力はある。</p> <p>●対話の内容を把握する力や、長い分を聞き取りそれに対する質問に答える力が不足している。</p> | <p>・ALTの先生の活用を工夫して、生徒が自然な英語を聞くという機会を増やしたり、CD教材やDVDを使った聞き取りに慣れさせるとともに、CD教材やDVDを使った聞き取りに慣れさせるとともに、重要な情報や聞き取れたものをメモを取りながら聞く習慣を、身につけさせたい。</p> |
| 読むこと | <p>○文法については、ある程度理解している生徒が多い。</p> <p>●長文に対しては最初からあきらめてしまうという生徒が多く、概要の把握や必要な情報の抜き出しが苦手な生徒が多い。</p> | <p>・英語の文章の内容を、簡単にまとめる練習を増やし、概要や重点をつかむ読み方の指導に力を入れる。また、英文の内容に関して、文章中の代名詞や指示語が、具体的に何を指しているのかを考えながら読むことで、文章中から必要な情報を探し出す練習をさせていきたい。</p> |
| 書くこと | <p>○基礎的な表現の作文は授業でも行っている。単語の書き取りテストなどにも力を入れている。</p> <p>●条件英作文などには苦手だと感じる生徒が多く、持っている知識をどの場面で使ったら良いかを考える力が十分に定着していない。</p> | <p>・英語の基本文の指導を徹底し、学習した文型を応用した小テストなどを実施して、その定着を図りたい。また、英語の表現能力を身につけるために、英語の語彙を増やし、与えられた場面の中で、覚えた文型の運用能力を伸ばしていくようにする。</p> |
| | | |

宇都宮市立若松原中学校第2学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○学習について「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「1か月に読む本の量」「学校の学習はやりたくなる内容である」「学習に対して自分から取り組んでいる」「授業では最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業を集中して受けている」などの質問に対する肯定的回答の割合が宇都宮市、栃木県と比べて高い。

○生活について「毎朝自分で起きている」「早寝早起きを心がけている」「自分の行動や発言に自信を持っている」「時間を上手に使うことを心がけている」「将来の夢や目標がある」「家の人と将来のことについて話すことがある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」などの質問に対する肯定的回答の割合が宇都宮市、栃木県と比べて高い。

●学習について「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の質問で肯定的回答の割合が宇都宮市、栃木県と比べて低く、「学校の授業以外の1日当たりの勉強時間(学習塾、家庭教師を含む)」の質問で宇都宮市、栃木県の勉強時間よりも少ない回答の割合が多かった。このことから、学校と家庭が連携して、家庭学習の時間の確保に取り組めるようにしていきたい。今後も自主学習ノートの定着を図っていく。

●生活について「携帯電話、スマートフォンを持っていますか」の質問では持っているとの回答が宇都宮市、栃木県と比べて高く、また、「1日の携帯電話、スマートフォンの利用の時間(家の人との電話やメールを除く)」では宇都宮市、栃木県と比べて時間数が多い、特に3時間以上費やしている生徒の割合が一番多い回答であった。そこで、保護者会などで携帯電話やスマートフォンの利用時間の削減をお願いすると共にその危険性を説明していきたいと思う。